

令和3年度 県立江戸崎総合高等学校自己評価表

| 目指す学校像 | 1 規律を重んじながら生徒一人一人の個性を伸ばす、創意と活力に満ちた学校 2 地域の様々な教育的ニーズに応える、生徒、保護者及び地域住民に広く信頼される学校 3 生徒一人一人の興味・関心、能力・適性に応じた進路の実現ができる学校 | | |
|--|--|---|------|
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 |
| <p>1 学力や学習意欲に関して多様な生徒に対応するため、特別進学クラスの設置や少人数による授業展開（数学・英語）を実施している。また、生徒主体による中学校での出前授業をはじめ、地域連携活動をとおして、生徒の自己肯定感・有用感を高める指導を推進している。さらに、各種検定試験の全員受験を実施し、3年次における資格記入率（就職履歴書）は89%となるなど、一定の成果をあげている。</p> | <p>基礎学力の向上と個に応じた学力の定着</p> | <ul style="list-style-type: none"> 授業に臨む基本的な態度を育成し、学力の定着を図る。また、主体的に学ぶ意識を育成する。 英語・数学での習熟度別学習指導の工夫改善に努め、個別指導の充実を図る。特編クラスの指導を組織化し、計画的に行う。 生徒に興味・関心を持たせる授業を工夫し、知識・技能の習熟を図る。また、各種検定試験の合格を目指す。 「1人1台端末環境」において、ICTを活用した授業実践を行い、生徒一人一人が、それぞれの学習状況に応じた知識・技能等の習得に効果的な学習が行えるように支援する。 | B |
| <p>2 進路希望は、就職から国公立大学進学まで、生徒一人ひとりの希望は多岐にわたっている。就職については、学校を通しての就職内定率が98%になるなど、高い実績をあげている。進学については、特に医療・看護系学校への希望が年々増えているが、組織的かつ継続的な取組により全員の進路実現を果たした。</p> | <p>基本的生活習慣の確立と規範意識の育成</p> | <ul style="list-style-type: none"> 頭髪・服装・遅刻指導について、日常的・継続的な生徒指導を徹底する。 保護者に対して、様々な機会を通して規則・規律の尊重についての理解を求める。 生徒指導に対する職員間の共通理解を深め、一致協力して指導にあたり、充実させる。 授業や学校行事で5分前を意識した行動に努める。 | A |
| <p>3 積極的な指導を通して生徒の規範意識は高まっている。また、昇降口指導や服装指導を全職員で継続した結果、チェックを受けた生徒数は年度末には激減した。ここ数年続いていた重大交通事故は1件もなく、交通安全指導の成果が見られた。家庭と連携した指導と教職員全体の指導実践をさらに一致させ、指導体制をより強固にしている。</p> | <p>進路希望の実現と指導体制の確立</p> | <ul style="list-style-type: none"> 4年制大学進学希望者に対する指導方法について再考し、4年制大学進学者の増加を目指す。 インターシップを実施し、進路について自ら考え主体的に決定できる力を育てる。 「産業社会と人間」の時間の一層の充実にも努め、3年間を見通した進路シラバスに基づく指導を実践する。 模擬試験や資格取得を推進し、進路希望の実現を図る。 進路当番や企業訪問等での担当者の負担公平化に努める。 | A |
| <p>4 生徒会役員の定例会を毎週1回行っている。また、応援団、文化祭実行委員会に多くの生徒が積極的に参加するようになった。ボランティア活動にも熱心に取り組んでいる。特別活動を通じた活動記録を、「江総ポートフォリオ」（キャリアパスポート）に記録している。</p> | <p>地域と連携した学校づくりの推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域社会と連携した、開かれた学校づくりに務める。 「チャレンジ・プロジェクト」を通して、地域貢献、地域連携、地域共生を目指す。また、プロジェクトの精選・見直しを随時行い、その質を高める。 | B |
| | <p>生徒の主体的活動の充実</p> | <ul style="list-style-type: none"> 部活動へ積極的に参加し、学校生活への興味・関心を高める。 学校行事や生徒会活動に積極的に参加できる工夫をする。 勤労体験やボランティア活動を通して心の育成を図る。 部活動顧問の適正配置や、効率的な練習方法を研究・導入するなど顧問の負担感を減少させる。 「江総ポートフォリオ」（キャリアパスポート）を活用して、生徒一人一人の探究活動を記録し、自己を見つめる契機とする。 | A |

| | | | |
|---|------------------|---|----------|
| <p>5 令和2年6月の勤務時間調査では、勤務時間外の在校時間が月80時間を超過していた教員がいたが、面談を行った結果、10月の調査では0名となった。ただし、依然として、勤務時間外の在校時間が月45時間を超過している教員が少なからず存在する。</p> | <p>働き方の改革の推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「きんむくん」による集計を毎月実施することにより、教職員の勤務時間外の在校時間のより正確な把握を行う。 ・目標設定面談、評価面談の場において、勤務時間外の在校時間を減らす手立てを考えることにより、教職員の働き方改革に対する意識を高める。 ・部活動顧問の適正配置や、効率的な練習方法を研究・導入するなど、顧問の負担感を減少させる。 | <p>B</p> |
|---|------------------|---|----------|

| 三つの方針 | | 具体的目標 | 評価 | | 次年度（学期）への主な課題 |
|------------------------|---|--|----|---|---|
| 「三つの方針」 （スクール・ポリシー） | 「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー） | （長期的目標） ○自ら学び、自ら考える意志をもって、意欲的に学習活動に取り組むことができる生徒 ○江戸崎総合高校生としての誇りをもち、地域社会の発展に貢献できる生徒 ○調和のとれた豊かな人間性や社会性を備え、よりよい社会を実現しようとする生徒 | B | | 「総合的探究の時間」の更なる活用をはかり、自ら地域社会の発展に貢献しようとする態度の育成をはかる。 |
| | 「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー） | （中期的目標） ○生徒一人一人の個性を伸ばし、個々の教育的ニーズに応じた教育内容の充実 ○進路希望の実現に向けた、キャリア教育の充実 ○ICTの活用など多様な学びの機会を通した、広く社会で通用する思考力・表現力の涵養 | B | B | 全ての授業におけるICT機器の利用率にあげることにより、多様な学びの機会を増やす。 |
| | 「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー） | （短期的目標） ○互いを認め、高め合って協働し、切磋琢磨しながら成長しようとする生徒 ○基本的な生活習慣と基礎学力を身に付け、意欲的な学習を継続しようとする生徒 ○進路希望の実現に向け、主体的・意欲的に行動しようとする生徒 | A | | 入学生に対する初期指導の充実をはかることにより、意欲的に学習を継続しようとする態度を育成する。 |

※評価基準： A：十分達成できた B：達成できた C：やや不十分だった D：不十分だった

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 | |
|---------------------------|---|---|--|---|--------------------------|
| 教科指導 | ①基礎学力の定着を図る。 | ・授業に臨む基本的な態度を育成する。 | B | 授業をスムーズに開始する。 | |
| | ②学習指導法の工夫を図る。 | ・定期的に授業公開を行い、指導力の向上を目指す。 | B | B 授業の相互観察を活発にする。 | |
| 国語 | ①個別指導を充実し、大学進学に対応できる学力を育成する。 | ・3年次に小論文を進路指導部・他教科と連携して指導できる体制を作る。 | B | 他教科との連携を強化する。 | |
| | | ・国語研究の授業と放課後の個別指導を通して、様々な進学希望に対応できるようにする。 | A | | |
| | ②基礎基本の定着をはかり、「分かる」授業を展開して生徒の興味関心を高める。 | ・教科書の内容以外に、国語の一般常識の学習や漢字練習を取り入れ、基礎学力の向上を目指す。 | A | B ICT機器を積極的に取り入れる。 | |
| | | ・各授業における達成目標や評価規準を明確にし、言語活動を充実させることで、生徒に「できた」「分かった」と実感させ、学習意欲を引き出させる。 | B | | |
| | 地歴公民 | ①基礎学力の定着を図る。 | ・授業に臨む基本的な態度を育成するとともに、基本的な事項や時事問題についてどの生徒も理解できるよう、テーマや新聞などの教材を工夫する。 | B | B ICT教材の活用も含めた教材・教授法の工夫。 |
| | | ②個に応じた指導を行う。 | ・大学入学共通テスト・一般入試対応や歴史能力検定試験、就職試験対策などの課外を行うとともに授業中も机間指導を積極的に取り入れ、生徒の実態に応じた指導を展開する。 | C | |
| ③地域に対する理解を深め、郷土愛の精神を育成する。 | | ・授業に地域の歴史・地勢・風土などの話題を取り入れることで、地域に対する理解を深め、地域を大切に作る姿勢を育てる。 | B | | |
| 数学 | ①基礎学力の定着を図る。 | ・単元の導入やまとめに既習事項の確認を行い、生徒の理解度に合わせた指導をする。 | A | B 次年度も継続して指導する教科の教員内での連携を行い徹底して実施する。 | |
| | | ・日頃から家庭学習用のプリント課題を作成し、学習習慣の定着を図る。 | B | | |
| | | ・マナトレを活用し、既習事項の学び直しをすることで、知識の漏れをなくす。 | A | | |
| | ②生徒に数学を学ぶ意義を実感させ学ぶ意欲の向上を図る。 | ・授業で学習した知識を活用する活動を定期的に取り入れ、数学の有用性を実感できるようにする。 ・少人数指導により、個々に応じた指導を行う。 | B | | |
| ③入試に対応できる学力の定着を図る | ・放課後や休み時間を利用した課外を通して、より難易度の高い問題に触れる機会をつくる。 ・個々の能力に応じてプリント等を用意し、レベルの高い内容を学習させる。 | B | B 基礎の重要性の徹底。 教員間の連携。 | | |
| 理科 | ①基礎学力の定着を図る。 | ・基本的な知識や概念を授業などで繰り返し取り上げ、小テストや演習問題で定着を図る。 | A | B 特進以外の系列の生徒への対応。 | |
| | ②大学進学に対応した指導の充実を図る。 | ・授業展開や実験などを工夫して興味・関心を持たせ、個別指導を充実させる。 | B | | |
| | | ・進学課外や宿題等を生徒に課し、学習する習慣を身に付けさせる。 | B | | |
| 保健体育 | ①社会生活で必要とされる知識の定着を図る。 | ・卒業後の社会生活を送るうえで必要とされる基礎的な知識を、繰り返し取り上げ定着を図る。 | A | A 次年度も継続して行う。 感染症対策に留意した実験計画の検討を行う。 進学課外の充実が必要。 | |
| | ②学習意欲が高まるような指導の工夫を図る。 | ・視聴覚素材を効果的に使用したり、生徒にとって身近な話題や問題を積極的に取り上げ、生徒の興味・関心を促す。 | A | | |
| | ③技能・体力の向上を図り、生涯スポーツの獲得を目指す。 | ・技能を身に付け体力の向上を図るための資質・能力の育成を図り、生涯スポーツを獲得するために積極的に授業に関わるよう指導する。 | B | | |
| | ICTの活用をし、より効果的な方法を確立する。 | | | | |
| 芸術 | ①芸術への愛好心を育む。 | ・芸術的活動を通して、感性と教養を向上させ、実生活の中で表現されたものへの気付きや感性を高める。 | B | A 継続して、視聴覚教材の活用を行う。 生涯スポーツの獲得の重要性を認識させる必要がある。 | |
| | ②基礎表現技術を身に付ける。 | ・可能な限り個々の技術的レベルに沿って、表現体験の実現を目指す。 | A | | |
| | ③個性豊かな表現力を伸ばす。 | ・形や指示に沿うのではなく、意思と思考から発せられた表現に、前向きに取り組む。 | B | | |
| 外国語 | ①分かる授業を展開する。 | ・個々の理解度を十分に計り、必要に応じて個別に対応しながら、基礎基本の定着を図る。 | B | B 継続的な指導で、基礎学力を高めていく。 より良い活用法を考えていく。 | |
| | | ・ICTを積極的に活用することで生徒の学習意欲が高まるように工夫をし、分かる授業に繋げていく。 | A | | |

| | | | | | | |
|-------------------------------|------------------------------|---|--|--------|----------------------------|---|
| 教 科 | 外国語 | ②英検の受験を奨励する。 | ・授業を通して生徒の受験を促し、希望者に対して課外指導を実施する、また二次試験に対応できるよう指導する。 | B | B | 授業内における扱い方を再考する。 |
| | | | ・英検で能力が試される四技能を伸ばすために、授業における生徒主体の活動内容を検討する。 | B | | |
| | | ③入試に対応した実力を身につけさせる。 | ・上級学校受験希望生徒のニーズに応じた、より高度な授業を展開する。 | B | | |
| | | | ・基礎基本の定着を図り、更なる実力向上のため、放課後などに課外授業を行い受験対策を図る。 | B | | |
| | 家庭 | ①家庭生活を主体的に営むための基本的な知識と技術を育む。 | ・スモールステップの授業を取り入れる。 ・実習においてT Tの指導を行う。 | B B | B | 次年度も継続する。 次年度も継続する。 |
| | | ②家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 | ・ホームプロジェクトにより家庭生活の改善を図る。 ・学校クラブ活動を通して自分たちに可能な地域貢献を行う。 | B B | | |
| | 情報 | ①情報活用の実践力を養う。 | ・情報モラルとメディアリテラシーについて、プリント学習や実例の提示を通して理解させる。 ・自ら課題を見つけ、解決へ導くことができるような課題を設定し、主体的に学ぶ態度を養う。 | B A | A | 生徒指導と関連させる。 協働学習と調べ学習を増やす。 |
| | | ②情報の科学的な理解を深める。 | ・情報手段の特性や情報の適切な扱い方を実習を通して理解をさせ、情報を活用できるようにする。 ・情報セキュリティについて、映像教材や体験実習を通して理解させ、危機意識を高める。 | A B | | |
| | 農業 | ①実践教育を通して、生徒の興味関心を農業に引きつける。 | ・実験実習をより工夫し、生徒が自主的に取り組む授業を目指す。 | B | A | 課題研究の実施に向け更なる改善を図る。 老朽化した設備の更新を行い、最先端技術の導入を図る。 農業クラブ活動及びプロジェクト活動の活性化を図る。 3級の合格率を上げる。 |
| | | | ・生徒の教材となる農場運営を心掛ける。 | A | | |
| | | ②個々の生徒に応じ、農業教育における活躍の場を設ける。 | ・農業クラブ活動を通し、生徒の個々の能力を向上させる。（農業クラブ県大会：最優秀1人以上） | B | | |
| | | | ・農業技術検定等の資格取得を目指す（農業技術検定：合格率6割以上）。 | A | | |
| | ③学校と地域の連携を深め、地域貢献、地域共生を実践する。 | ・農業関連のHPをより充実させ、地域に情報を発信する。また、更新を月1回以上行う。 ・地域の幼小中学生等に農業体験学習の場を提供する。また、地域の環境美化等に協力する。 | A A | | | |
| | | ・継続する。 | A | | | |
| | 工業 | ①規律ある態度の育成をする。 | ・実習服の正しい着用の徹底、実習を受ける姿勢、実習に取り組む基本的な態度を育成する。 | A | A | 引き続き指導に取り組む。 さらに実践的な内容を検討する。 |
| | | ②学習内容の厳選を行う。 | ・実習内容・方法の再構築を行う。 | A | | |
| | 職業 | ③学校と地域の連携を深め、地域貢献、地域共生を実践する。 | ・出前授業や作品展示を通して地元中学校との交流を図り、ものづくりの楽しさやメカニカルテクノロジーの取り組みを伝えながら、地元に戻元できる人材を育てる。 | B | A | コロナ対策をしながら実施できる形を検討する。 |
| | | | ・引き続き継続する | A | | |
| | 福祉 | ①基礎的な学力の向上と実践的な態度を身に付ける。 | ・社会福祉や介護の基礎的・基本的な知識や技術を総合的に学ぶ。 ・校外での介護実習を通して、より実践的な態度を育てる。 | A A | A | 感染症予防対策を行いながら実施できる形態を検討する。 引き続き継続する。 引き続き継続する。 引き続き継続する。 感染症予防対策を行い実施する。 |
| | | | ・生徒の能力と実態に合わせて、授業を工夫・改善する。 ・主体的に学習する態度を身に付け、課題解決能力を形成する。 | B B | | |
| ③介護従事者としての専門的な知識・技術を習得し、育成する。 | | ・対人援助を行う際のマナーについて生徒自らが認識し、あるべき姿を考えられるようにする。 ・福祉や介護について、看護の分野をなどから専門的な知識・技術の習得をする。 | A A | | | |
| | | ・学校間交流等の行事への参加や実習・就職を通して、地域との連携を図る。 ・「生徒生き生き育成プラン」の事業を通して、地域との連携を図る。 | A B | | | |
| 教務 | ①学習環境の整備及び授業改善の推進を図る。 | ・授業の振替を確実にを行うことにより授業時間を確保する。 ・中学校における授業参観やICT環境の整備により、授業改善に取り組む。 | A B | A | 継続して推進する。 ICT活用をより推進する。 | |

| | | | | | |
|-----------------|---|--|-----------|---|--|
| 教務 | ②教育課程や校内諸規程の見直しを検討する。 | ・教育課程検討委員会を中心に社会に開かれた教育課程を編成する。 ・校内諸規程の見直しを継続して進める。 | A | B | カリキュラムの再編を推進する。 |
| | ③地域との連携を推進する。 | ・「いなしき江総アクティブプラン」事業をもとに、地域との連携を充実させる。 | A | | 必要に応じて見直しを進める。 |
| | | ・中学校での出前授業や作品展示を拡充させ、特色ある本校の教育活動を広報する。 | B | | 継続して推進する。 |
| 生徒指導 | ①生徒の規範意識を高めると共に、基本的生活習慣の向上に努める。 | ・生徒との信頼関係の構築を重視し、面談や声かけなど、心に響く指導を展開する。 | A | B | 地域連携委の活動を充実させる。 |
| | | ・規範意識や基本的生活習慣の向上と定着を図るため、職員全員で積極的な声かけを行う。 | B | | 継続して推進する。 |
| | | ・ルールやマナーを尊重する態度を育成するため、職員間、職員と保護者の連携体制を強化する。 | B | | より生徒の実態にあった指導を推進していきたい。 |
| | ②自他の生命を尊重する精神を養うと共に、豊かな心を育成する。 | ・自他の生命、尊厳を尊重する精神を養うため、HR、年次集会や各種講話の充実を図る。 ・交通マナーや交通安全の意識の向上を促すため、定期的な登下校指導、自転車・バイク点検、安全運転講習会を実施する。 | A | | より連携を深めていきたい。 |
| 進路指導 | ①生徒個々に適した進路の選択、決定、実現を図る。 | ・1・2年次と連携し、生徒の希望に沿ったインターンシップを実施する。 | A | A | 継続して推進する |
| | | ・1年次の「産業社会と人間」の授業と連携し、進路行事を実施する。 | A | | コロナ禍のため実施できないものがあった。より良い形を検討する。 |
| | | ・地域の大学と連携し、サマースクールを実施する。 | C | | さらに充実を図る。 |
| | ②生徒個々の進路希望に応じた学力の向上を図る。 | ・各年次や教科と連携し、放課後および長期休業中における進学課外、個別指導の充実を図る。 | A | | さらに連携を図る。 |
| | | ・各年次と連携し、模擬試験を計画的に実施する。 | B | | 生徒の実態にあった実施を検討する。 |
| | ③進路希望実現のための指導方法を確立する。 | ・進路担当の役割を明確化し、進路当番や企業訪問等、担当者の負担の公平化に努める。 ・年次ごとの取組を情報発信し、次年度へ継承できる体制を構築する。 | A | | 仕事の効率化を図る。 |
| 特別活動 | ①キャリアパスポートについて本校の「江総ポートフォリオ」を活用し、行事を通じてキャリア形成を図る。 | ・生徒会定例会を毎週開き、本部役員の意識向上と資質の向上を図る。 | A | A | 3年次の情報を1年次にも情報共有できるようにする。 |
| | | ・江陵祭実行委員・クラスマッチ実行委員・応援委員等について、本部役員以外の多数の生徒が運営に参加し、主体的な活動ができるように支援する。活動に関しては、「江総ポートフォリオ」に記録し、振り返りができるようにする。 | B | | 生徒の積極性を養えるよう支援・指導をしていく。 |
| | ②部（同好会）活動・委員会活動の活性化を図る。 | ・部活動説明会、見学会等を実施し、生徒が積極的に部活動などに加入・参加できるようにする。 | A | | 実施形態の検討等、ノウハウの伝達を行う。 |
| | | ・年3回の各種委員会を設定し、目標設定・計画立案・反省・評価ができるようにする。 | A | | 生徒・教職員の安全性を確保しながら可能な限り各種学校行事を実施していく。 |
| | ③地域行事へ積極的に参加する。 | ・地元自治体と連携し、自治体主催の行事や「生徒活き活き育成プラン」等の事業を通して、地域の行事へ積極的に参加できるようにする。 | B | | 令和5年度部活動改革への体制づくりを推進する。 |
| 保健厚生 | ①学校環境の整備、美化に努める。 | ・ゴミの分別回収、清掃分担区域の清掃の徹底を図る。 | B | A | 主体性の育成を図る。 |
| | | ・環境美化委員会の活性化を図る。 | A | | 感染状況をふまえ、可能な限り連携を図っていく。 |
| | ②健康について意識の高揚を図る。 | ・身体測定、健康診断を一斉実施し、「保健だより」による情報提供をする。 | A | | 大掃除の内容を精査する。 |
| | | ・保健委員会の活性化を図る。 | B | | 近隣地域の清掃活動の計画推進。 |
| ③防災、安全衛生点検に努める。 | ・事故の未然防止を図るための避難訓練および校舎内外の点検、水質検査を実施する。 | A | 継続して実施する。 | | |
| 図書 | ①図書館の利用頻度を高める。 | ・学校図書館にある資料を「図書館だより」やガラスケース、館内に見やすく提示する。 | A | A | 生徒自ら考え行動する。 |
| | | ・教職員、生徒が興味関心を持つ書籍を購入する。 | A | | 衛生委員会との連携をする。 |
| | ②図書委員会の活性化を図る。 | ・書籍資料の点検、整理整頓を心がける。 | B | | 図書委員の参加を積極的に促す。 希望図書はなるべく早く受け入れる。 定期的に整理整頓を行う。 |

| | | | | | |
|---------------------------------------|-----------------------------|---|---------------------|---|--|
| 図 書 | ③蔵書の管理を図る。 | ・図書の貸し出し、ガラスケース展示の補助を図書委員に任せ、図書委員会の活性化を図る。 | A | | 引き続き実行する。 |
| | | ・コンピュータによる蔵書管理を進める。 | A | | 引き続き実行する。 |
| | | ・書籍資料の受入、除籍を速やかに行う。 | A | | 引き続き実行する。 |
| 渉 外 | ①P T A活動の充実を図る。 | ・P T A会員による主体的な運営を行い、会員の行事への参加率を高める。 | B | B | 継続実施。 |
| | | ・家庭と学校との密接な連携を目指し、会報誌の発行や学校行事等への積極的な参加を呼びかける。 | B | | 継続実施。 |
| | ②教育環境の整備・充実を図る。 | ・登校・校外指導を通じ、生徒の規範意識、基本的生活習慣の定着を図る。 | A | | 継続実施。 |
| | | ・生徒・保護者からの声を聞き、よりよい校内環境を整えられるよう努める。 | B | | 要検討。 |
| | ③会員相互の親睦を図る。 | ・研修に代わる企画を計画することで、アイデアを募り、会員相互の親睦を図る。 | C | | 継続実施。 |
| | | ・同窓会・後援会との連絡を密にし、学校行事等への一層の理解と協力を得る。 | B | | 継続実施。 |
| 1 年次 | ①基本的生活習慣を確立する。 | ・挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的生活習慣の確立を図る。 | A | B | 引き続き実行する。 |
| | | ・学校が自己実現の場として最大限の機能を果たせるよう、常に環境改善に努める。 | B | | 引き続き実行する。 |
| | ②社会性の向上を図る。 | ・善悪を判断する力、正義感、公共のルールやマナーを守る姿勢を身に付けさせる。 | B | | 公共の場を理解し相手に対して配慮することができるように指導する。 |
| | | ・周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。 | B | | 自利利他の心を身に付けることができるように指導する。 |
| | ③進路目標を設定し、基礎学力の定着を図る。 | ・日々の授業を大切にし、自ら考え、自ら学ぶ姿勢や意識の向上を図る。 | A | | 引き続き実行する。 |
| | | ・検定等の資格取得を推奨し、進路意識を持たせながら学習意欲の向上に努める。 | B | | 検定・資格試験の積極的受験と合格に向け自己努力する能力を養うことができるように指導する。 |
| 2 年次 | ①基本的生活習慣を確立させ、規範意識を育成する。 | ・挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的生活習慣の確立を図る。 | A | A | 引き続き指導していく |
| | | ・善悪を判断する力、正義感、公共のルールやマナーを守る姿勢を身に付けさせる。 | A | | 引き続き指導していく |
| | | ・周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。 | B | | 自分中心ではなく周囲に目を向けさせたい。 |
| | ②自主的・実践的態度を育成し、主体的活動の充実を図る。 | ・部活動や生徒会活動、学校行事に積極的に参加する姿勢・態度を醸成する。 | A | | 次年度も学校行事への積極的な参加を促したい。 |
| | | ・勤労体験・修学旅行等の校外諸活動を通して、社会性の向上と心の育成を図る。 | B | | 引き続き指導していく |
| | ③基礎学力の定着と進路意識の育成・向上を図る。 | ・日々の授業や課外等を大切にし、自ら考え、自ら学ぶ姿勢や意識の向上を図る。 | A | | 多くの生徒は落ち着いて学習に取り組めた。 |
| ・検定等の資格取得を推奨し、進路意識を持たせながら学習意欲の向上に努める。 | | B | 検定の機会を設けることができなかった。 | | |
| 3 年次 | ①生徒個々の希望や適正に応じた進路の実現を図る。 | ・家庭と連携して規範意識を高め、問題行動の未然防止に努める。 | B | B | 特性に合わせて育成された。 |
| | | ・総合的な探究や個別対応を通して必要な情報を提供し、適切な進路指導を行う。 | A | | 進路達成率はおおむね良好。 |
| | ②基本的生活習慣を確立する。 | ・挨拶励行、標準服の適切な着用、時間厳守、整理整頓を習慣づける。 | C | | 恒常的な遅刻を根絶できなかった。生活習慣の改善・身だしなみ指導の継続。 |
| | | ・家庭と連携して規範意識を高め、問題行動の未然防止に努める。 | A | | 最小限の件数で済んだ。 |
| | ③社会性の向上を図る。 | ・学校生活を通して、適切な意志決定・行動選択をする能力を養う。 | A | | 判断力・自制心が養われた。 |
| | | ・様々な考え方や意見を尊重しつつ、他者と協力できる態度を身に付けさせる。 | B | | クラスマッチなどの行事や、授業において身に着いてきた。 |

※評価基準： A：十分達成できた B：達成できた C：やや不十分だった D：不十分だった